

聖書ではたくさん同名異人が登場しますが、見分けるにはどうしたらよろしいでしょうか。

そうですね。二人、三人程度でしたら、聖書に馴染むうちに自然と区別がつくようになるのですが、たとえば旧約聖書で「ゼカルヤ」（新共同訳での訳名。以下同じ。）は29名の別人が登場するほか、「ゼカリヤ書」の著者で、エルサレム神殿再建時の預言者の名はヘブライ語では同じ単語のזְכַרְיָה(ゼカルヤー)にもかかわらず、「ゼカリヤ」と訳し分けられ、とても紛らわしいものがあります。（このあたりの経緯は当サイトの「教会FAQ」No.102をご覧ください。

南王国ユダの王「ヨシヤ」とバビロン捕囚からの帰還者の「ヨシヤ」、さらに「ヨシュア」は5名、「ヨシュア」の短縮形の「イエシュア」は7名。新約聖書の「ヤコブ」には7名、「ユダ」は16名、「ヨハネ」11名等々、枚挙にいとまがありません。

このように混乱を招きやすい人名の数々ですが、どの人名がどの書卷の誰なのか、見分けることは膨大な聖書の海の中にあっては、とても大切なことです。

そこで、この解決のためのひとつの提案なのですが、平素ご使用になっている聖句索引のためのコンコルダンスと併せて、できれば聖書人名辞典を手許に置かれ、活用されてはいかがでしょうか。

一例として、私(当サイト管理者)が愛用しているのは、レクラム文庫(ドイツ)の「聖書人名小辞典(ハンス・シュモルト—Hans Schmoldt著 高島市子訳) 創元社」です。日本語訳はすべて新共同訳聖書に基づいており、人名にはヘブライ語やギリシャ語の原義も併記されていますので（たとえばヨシュアはヘブライ語で「ヤーウェは救い」）、とても興味を持って味わっています。サイズはコンパクトですが人名見出しが2,036項目、登場人物数は約3,500を網羅しています。単に人物索引だけにとどまらず、聖書注解の補足として、あるいは、興味の趣くままに読むこともあり楽しいものです。その他、いろいろな聖書人名辞典がありますので、まだご利用でない方はぜひご検討なさってみてください。

なお、上記著作との一切の利害関係はありませんので念のため。